

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
朝のリレー	2	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)		【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
野原はうたう	2	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
はじまりの風	5	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
言葉 1	1	音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)		【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
話の構成を工夫しよう	6	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ)	【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
漢字 1	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
ダイコンは大きな根？	5	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
ちょっと立ち止まって	4	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
情報を整理して説明しよう	4	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
言葉 2	1	指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
空の詩 三編	4	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
言葉 3	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)		【態】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
比喩で広がる言葉の世界	2	比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
情報収集の達人になろう	3	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。

本の中の中学生	3	学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
大人になれなかった弟たちに…	4	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
星の花が降るころに	5	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ)	【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
項目を立てて書こう	3	書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
言葉 4	1	共通語と方言の果たす役割について理解することができる。	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
聞き上手になろう	2	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
漢字 2	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
〔言葉〕をもつ鳥、シジュウカラ	5	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
根拠を明確にして書こう	5	根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
大阿蘇	1	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)		【態】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
古典の世界	1	古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ)	【知・技】古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ)		【態】古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
蓬萊の玉の枝	4	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。
言葉の関係	3	単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。

今に生きる言葉	3	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書くようにしている。
不便の価値を見つめ直す	4	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ)	【態】必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう	4	意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
少年の日の思い出	7	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
単語の性質	2	単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
二十歳になった日	4	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
構成や描写を工夫して書く	5	書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書くようにしている。
漢字3	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
一年間の学びを振り返ろう	5	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
ぼくがここに	3	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
国語の力試し	3	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。